

< 鹿嶋神社で見かけた植物 ~ その 2 > 前号の続き、6月27日鹿嶋神社の植物紹介です。

ヤマグワ(クワ科 クワ属) *Morus bombycis*



かたまりを作っている一粒一粒が1個の花からできた果実で、そこから突き出ている細いのは雌しべの先端部分。たくさんの果実が集まって一つのかたまりを作るので「集合果」と呼ばれます。マグワやヒメコウゾなどよく似た木がありますが、果実がついていれば見分けは簡単。雌しべの先端が1本ならヒメコウゾ、先が2本に分かれ短かければマグワ、同じく先が2本に分かれるが、長く目立つようなら

ヤマグワです。カイコが葉を食べるマグワはおいしいといわれますが、私にはやや小さめのヤマグワの方がおいしく思えます。写真のように赤いのでなく黒く熟したのがおいしい。ヒメコウゾも食べられますが、口あたりはよくないようです。葉は切れ込みのないものからヤツデのように大きく切れ込むものまでいろいろです。オスの木とメスの木がありますが、これは実がついているのでメスの木。

サンショウ(ミカン科 サンショウ属) *Zanthoxylum piperitum*



若葉を薬味にしたり、熟した果実は粉末にし香辛料としてウナギのかば焼きなどにかけます。また幹や枝からすりこぎ棒を作ったりと利用価値が高く、庭などに植えられていることも多い木です。イヌザンショウという似た木がありますが、そちらは葉も果実も香りが少なく、利用されません。枝のトゲが2つずつ対になってつけばサンショウ、1個ずつつけばイヌザンショウと見分けられます。どうも、似

ているけど人間に利用されない植物には「イヌ」と名づけられるものが多いようです。これもオスの木とメスの木がありますが、写真は実がついているのでメスの木ですね。

シュロ(ヤシ科 シュロ属) *Trachycarpus fortunei*



ヤシ科は熱帯や亜熱帯が中心で、寒さに強いシュロでも西日本までの分布でした。この辺で昔見られたのは移植されたもののようですが、最近増えてきたのは、ヒヨドリなどの鳥が実を食べて、別の場所に落とした糞から芽生えたものが成長した結果だと考えられています。シュロの子どもは寒さが苦手です。冬を越せなかったのですが、地球温暖化などの影響が気温が高くなって、この頃ではあちこちの林などで野生化しているのをよく見かけるようになりました。これもオスの木、メスの木があります。